

第3回 宇都宮コミュニティFM「ミヤラジ」放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成30年7月11日(水) 13時00分～14時00分
2. 開催場所 下野新聞NEWS CAFE 2階
3. 出席者 審議委員総数：7名 うち出席委員数：4名
 - (1) 出席委員 大木 雄一郎、長谷川 正、長島 俊夫、岩井 俊宗
 - (2) 放送事業者側 稲葉 克明、中村 長司、益子 早苗
4. 議事
 - (1) 番組の説明・試聴、意見交換
 - (2) その他
 - (3) 次回の開催日程

5・議事内容

- (1) 番組の説明・試聴、意見交換

①審議番組「ミヤラジ防災番組」(出演：防災関係機関より都度ゲスト)

- 提供 宇都宮電子株式会社(15分)
放送日 毎週月曜日 11:00～11:15(提供枠)(放送は11:00～11:30)
番組内容 身近な防災について、各方面からのゲストを招いてお話を伺う。
審議対象回 平成30年7月2日(月)放送分

- (事業者) 毎月第1週目は、「緊急告知ラジオ」の実験放送からスタートする。この回は、消防局から2名を招き、6月13日に行われた栃木県消防救助技術大会の競技についてお話を伺った。
- (審議員) 防災の観点とパーソナリティの話の持っていく方が大切。訓練の話を実際の災害の話につなげていけるとよい。
- (審議員) 宇都宮市は災害が少ないが、市の災害本部はあるのか、連携はどうなっているか？
- (事業者) 万一の場合は、災害本部が置かれる。当局にも情報はFAXで送られてくる。ただ、被害情報はかなり遅れてくることも予想されるので、市民からメールやFAXで情報をいただいて、より早く情報をお伝えしたい。いざというとき、「ミヤラジを聴けば情報がわかる」と認識してもらえるようにしていきたい。
- (審議員) 田川があふれそう、などの身近な緊急の情報をいかに迅速に伝えてもらえるかが放送局の役目ではないか。
- (審議員) 災害は身近なところで起きる。自分の住んでいるところは大丈夫かと心配になる。ハザードマップを市民は身近に感じていない。避難しなくても大丈夫だろうという意識が強く、逃げ遅れる人も出てしまう。日頃の準備が必要。
- (事業者) ゲストの説明に併せて、実際に必要な情報をパーソナリティがリードして伝えていくようにしたい。災害においてはハザードマップをいかに使うか、宇

都宮で考えられる災害の事例を挙げるなどして、日頃からの意識を高めたい。

②審議番組「健康三種の神器」（出演：かましん社員、その他）

提供 スーパーマーケットかましん

放送日 毎週月曜日 9:00～9:54

番組内容 健康をテーマに、スーパーマーケットかましんのスタッフやバイヤーが出演する番組。各方面からのゲストも招く。

審議対象回 平成30年6月25日（月）放送分

（事業者）この回は、栃木県栄養士会がゲスト。病院に34年勤務し、毎日850食の病院食を作っている方を招き、仕事内容や糖尿病、心臓病、コレステロールなど生活習慣病について話を聞いた。

（審議員）仕事内容より、この時期は熱中症について話した方がよい。なんとなく聞いているのがラジオ。聞いている自分自身に必要な情報のほうがよい。

（事業者）ずっと聞いているリスナーばかりではないので、暑いという話が出たら熱中症の話題にまめに触れるなど、毎時間、注意を呼び掛けるとよい。

（審議員）病院食が昔と大分変っている。内容もアピールしやすいところから入るとリスナーの興味も向いてくる。誰が聴いているか、時間帯も気に掛けると良い。

（事業者）ミヤラジでは、金曜日11時台に健康番組を放送している。この番組は、提供側の出演者の都合に合わせて9時としている。

県の予算の話より、タイムリーな身近に感じられる番組作りが必要と感じる。ラジオは耳をそばだてるインパクトが必要。

（審議員）パーソナリティが話を引き出す。普段の生活を入れて、知っている情報を伝えると、リスナーがパーソナリティを近くに感じることができるのでは。市民パーソナリティの役割だと思う。

（事業者）宇都宮の情報なので、市民の皆さんとの関わりにも触れながら、地域の放送局との役割の違いを伝えていかないといけない。

（2）その他

なし

（3）次回の開催日程

次回の開催は、平成30年9月11日（火）13時とする。会場は追って通知する。

6. 審議会の公表方法

- ・放送で公表する
- ・書面を当社事務所内に備える
- ・ホームページに掲載する

以 上